

FOR LOCAL COMPANIES

地域に知られる。
社員が誇れる会社へ。

生きがい盆踊り 開催のご提案

社員と地域が、一緒に楽しむ時間を。

健康経営の、その先へ。地域とともに育つ企業へ。
大和フェスから、あなたのまちへ。

ワクワクをしかけよう。

2026年10月14日改訂 | v16

生きがい盆踊り実行委員会 事務局
一般社団法人日本IKIGAIデザイン協会

貴社が開催する、
3つの理由。

地元の人と出会い、会社の想いを伝える。
生きがい盆踊りを、貴社と地域の関係づくりに。

01

地域での認知

地元の人に、自社を知ってもらう。

社員が住民と顔を合わせ、仕事や地域への想いを伝える。「この盆踊りを企画・開催した会社」として、会社の名前と人を知ってもらう接点をつくります。

02

社員の誇り

地域との関わりを、働く誇りへ。

社員が企画や運営に関わり、住民の反応にふれる。自分たちの仕事や会社が、地域でどんな役割を果たせるかを実感する機会にします。

03

社会的な意義

地域で果たす役割を、社内外に伝える。

IKIGAI万博・日本IKIGAIデザイン協会との連携で、貴社の実践を紹介。閉会式では開催結果を、概念実証に参加した企業は従業員の検証結果も報告できます。

健康経営の、その先へ。

地域とともに育つ、ローカルゼブラ。

社員の健康や働きやすさを大切にしながら、地域との関わりも育てる。生きがい盆踊りは、事業と地域への貢献を両立する「ローカルゼブラ」の具体的な活動であり、IKIGAIパートナーの活動のひとつです。

社員と地域が、
顔を合わせる60分。

地域のお祭りや企業の周年行事に、ミニライブと盆踊りを。
貴社の目的に合わせて、曲と社員の関わり方を決めます。

歌で、集まる。
ミニライブで場をあたためる

→

一緒に、踊る。
共通曲や親しみのある曲で同じ輪に

→

地元の音頭で。
地域らしい曲を一緒に楽しむ

事務局が進行台本や準備物を整理し、合意した範囲で支援します。地元の出演者や踊り手と、曲目・役割・時間配分を調整します。詳細な12の進行枠は補足Aをご覧ください。

会場で、社員と住民が言葉を交わす。



問いパネルの活用例：アドベンチャーワールド。
出典：IKIGAI広場・株式会社アワーズのインタビュー

大和フェスでの問い

あなたにとって、
奈良とのつながりは？

貴社名と開催の想いを会場に掲示。シールを貼り、ひと言を交わす。住民の声を聞く時間も、社員と地域の接点になります。



共通デザイン例。企業ロゴ・開催地・専用QRを加える地域版をご提案。

貴社の名前が残る、参加記念

地域での出会いを、
その日で終わらせない。

ステッカーに企業ロゴと開催地、開催ページのQRを掲載。会社の想いや開催記録、貴社の公式サイト・LINEへつながる入口をつくります。

IKIGAIくん公式LINEは、希望者の記念画像や参加記録、調査案内の共通窓口へ。協会による測定・評価支援と合わせ、活動の価値を貴社に返す仕組みを提案します。

ステッカーは登録にかかわらず配布。閲覧・記念画像・調査はそれぞれ選べます。地域版と共通受付の構成は補足Dへ。

大和フェスで、
最初の実践へ。

地域企業が開く催しの一枠に、生きがい盆踊りを。
大和フェスを、地元で展開するためのテストベッドとします。



開催予定

大和フェス ×
生きがい盆踊り

2026.10.25 SUN

13:30-14:30

60分の盆踊りプログラム

唐古・鍵遺跡史跡公園

奈良県磯城郡田原本町唐古50-2

大和フェス内の盆踊りの実施体制

主催	株式会社ハンナ
共催	生きがい盆踊り実行委員会
後援	IKIGAI万博実行委員会 一般社団法人日本IKIGAIデザイン協会
事務局	一般社団法人日本IKIGAIデザイン協会

この実施体制は大和フェス内の盆踊り企画を対象とします。他地域では、主催・共催・後援・運営分担を開催ごとに合意します。



公開済みの記事 / 2025年の大和フェス

企業が開くお祭りと、地域の関係。

前年の大和フェスを紹介したイベントレポートです。2026年の盆踊りや概念実証の結果とは区別してご覧ください。

IKIGAI広場の記事を読む →

貴社と事務局の担当を、具体的に。

貴社が開催目的と社内窓口を決め、地域の人・場所・設備を調整。
事務局への依頼内容を整理し、担当と費用を開催前に合意します。

項目	貴社・地域で決めること 準備すること	事務局に相談できる支援
目的・体制	開催目的、対象者、社内窓口、協力する地元の団体	目的に合う企画内容、準備項目・担当の整理
進行・音楽	地元の音頭、社員の参加方法、地元の出演者候補	60分の進行台本、共通曲、曲目・出演の調整支援
会場・当日	会場・設備、現地スタッフ、地域への案内、当日の判断者	必要物・導線・進行の整理。現地対応や手配支援は範囲を確認
問い・記念品	地域の問い、企業ロゴ・紹介文の確認、ステッカーの配布担当	問い・掲示物・地域版ステッカー・開催ページ/QRの仕様と数量の整理
振り返り 発信	現地の記録担当、社内での用途、掲載内容・主催企業へのリンクの確認	開催報告・素材の整理、企業紹介・媒体掲載の調整

見積りで、担当・数量・費用負担・期限を明確に。

上の表は支援の相談範囲です。すべてが基本料金に含まれるわけではありません。出演者・音響・撮影編集・法被等は、地元で手配するか、追加依頼するかを決めます。

開催ごとの、責任と確認の体制。

決める
主催・実施責任者
目的・予算・実施条件と、当日の判断者を決めます。

実行する
各担当チーム
準備・運営・記録の担当と期限を共有します。

確認する
会計・掲載等の確認役
支払・提供内容・公開内容を担当者以外も確認します。

契約・支払・保険・安全管理・撮影掲載の窓口を明確にします。主催・共催・後援の名義から、費用や実務の負担を自動的に決めることはありません。

開催に必要な、費用と準備。

実施内容と、地元で手配できるものを確認して個別見積りへ。
お金と社員の時間の両方を、開催判断の材料にします。

INDIVIDUAL QUOTATION

依頼内容・現地の実費・追加手配を分ける。

開催地・希望時期・規模・準備状況を伺い、内容と金額をご提案します。輪に入る参加者の参加費は無料です。

費用の区分	確認する内容
事務局への依頼	企画相談、進行台本、問い・掲示物・ステッカー、開催報告等。業務・制作物の数量と担当を明示します。
現地での準備	会場・音響・電源・備品・現地人員・保険等。手配する担当と実費の負担先を確認します。
追加制作・手配	地域版ステッカーの制作・印刷差分、開催ページ/QR・写真連携、音頭制作、出演・撮影、法被・旗等。内容と費用を個別に確認します。

社員が担う作業も、見積りと一緒に。

開催前
社内調整・地域への連絡
会場や人員の確保

→

当日
受付・誘導・配布・記録
現地の運営と判断

→

開催後
振り返り・掲載確認
社内と住民への報告

準備期間、必要な役割、社員の担当範囲は会場や規模によって変わります。地元で対応できる仕事と、支援を依頼する仕事を整理して合意します。

見積りでそろえる、6つの条件。

01 開催地・日時・想定規模
02 現地と事務局の担当
03 制作物・配布物の種類と数量
04 税・交通費・運搬等の実費
05 撮影・記事・掲載・素材利用の範囲
06 支払・変更・中止時の取り扱い

概念実証への参加費用、協賛金、パートナー会費は、開催費と区別して確認します。すべてを一律に加算するものではなく、同じ費用を二重に計上しません。

相談から、
社内・地域での活用まで。

目的と開催条件を確認してから、準備を具体化。
各段階の担当者と期限を一緒に決めます。

01 開催で目指すことを整理する
地元に知ってほしいこと、社員に経験してほしいこと、つながりたい相手を伺います。

02 開催条件を確認する
希望時期・規模、会場候補、社内担当、地元で手配できるものを確認します。

03 内容・担当・費用を合意する
プログラム、提供範囲、主催等の役割、費用、当日の判断者を決めます。

04 会場・人・曲・問いを準備する
設備とスタッフを調整し、地元の音頭、社員の役割、地域の問いを具体化します。

05 地域に案内する
告知、問いパネル、ステッカー、必要な案内物を準備します。

06 社員と地域で開催する
基本60分。誘導・運営・記録・配布を分担し、住民と一緒に楽しみます。

07 住民の声と社員の経験を振り返る
参加の様子、地域の声、社員の気づき、費用と改善点を整理します。

08 貴社の次の活動に活かす
社内と住民へ報告し、次の交流企画を検討。閉会式で報告し、各地から得た学びも活かせます。

> **概念実証を希望する企業は、最初の相談から。**
> 従業員が企画・準備に関わり始める前に、測定対象・時期・尺度・費用・同意等を整えて事前測定します。詳しくは10ページをご覧ください。

開催前に合意すること。

楽曲・出演	曲の利用条件・必要手続き・出演範囲・各担当者。
安全・雨天	導線・緊急連絡・保険・当日の判断者・延期中止条件と周知。
撮影・掲載	保存・キャラ化・WEB/記事/SNS公開の範囲、本人や同行者の確認。
報告・費用	数え方・報告期限・素材の利用範囲・公開前確認・取り下げ窓口・精算。

実施内容は書面で合意します。閉会式の発表形式・公開範囲は事前に調整し、開催報告と任意の概念実証結果を区別して扱います。

開催後の経験を、会社と地域で活かす。

社員の活躍を社内へ。開催の想いを住民や取引先へ。
聞けた声と経験を、貴社の次の活動に役立てます。

01 社員の地域での役割を、社内で共有する。

写真と社員の振り返りを、朝礼や社内報へ。どんな役割で参加し、住民から何を聞いたかを伝え、次の活動での関わり方を考えます。

02 住民・取引先へ、貴社の実践を伝える。

開催報告や記事のリンクを、自社の活動紹介に。地域で大切にしていることを、具体的な交流の場面とともに伝えます。

03 次の地域活動を、地元と考える。

問いへの回答、住民の声、運営の気づきから、続けること・変えることを整理。閉会式で知った各地の工夫も、自社の企画に活かせます。

目的に合わせて、残すものを決める。

REPORT

開催報告

参加の様子・地域の声・社員の振り返り・改善点を整理。

PHOTO / VIDEO

使える写真・映像

許諾と利用範囲を確認し、社内外へ伝える素材に。

ARTICLE

記事・紹介リンク

会社の想いと実践を紹介。公開後、自社の案内にも活用。

記録は、貴社が活かすための材料に。

合意した開催報告と素材を貴社へ。開催ページの閲覧・自社リンクへのアクセスを開催回別に集計する仕組みを提案します。
概念実証を希望する企業には、協会が測定・評価を支援し、変化と改善案をレポートにまとめます。

撮影・編集量、報告項目、納品素材、利用範囲、掲載先・時期は事前に合意します。個人名簿やLINE友だち情報の提供を前提にせず、参加人数・配布数・投稿数は区別して記録します。

貴社の地域での実践を、万博が広く伝える。

地元にしかけたワクワクを、地域の外にも。
万博との連携で、貴社と催しを知る入口をつくります。

地元から万博へ　開催の想い・企業の実践を紹介

貴社と地域		IKIGAI万博
生きがい盆踊り	⇄	**来場者との出会い**
地域での開催・社員の活躍 会社が開く理由を伝える		開催案内・活動紹介から 貴社と地域を知る

万博から地元へ　企業を知る・これからの開催を訪ねる

企業名と開催の想いを、日時・場所・参加方法と一緒に紹介します。会期前の大和フェスは開催記録から、これからの催しは開催案内から、貴社の活動に関心を持つ入口へ。

IKIGAI万博 閉会式 / 2027.03.21

地域での取り組みを、閉会式で発表する。

各地の開催結果を報告し、貴社の地域での役割と従業員の活躍を伝えられます。概念実証に参加した企業は、従業員の変化を検証した結果も報告できます。

自社の意義を伝える

なぜ開催し、どんな交流が生まれたかを、結果とともに紹介。

従業員の実践を伝える

社員の活躍と学びを社外に伝え、誇りを育む機会に。

各地から学ぶ

他地域の工夫や検証結果から、次に自社で試すことを考える。

地元で開催 → 自社で振り返る → 閉会式で報告 → 次の自社活動へ

発表形式・公開範囲は事前に調整します。検証は個人が特定されない集計で報告し、閉会式時点で未完了の場合は途中経過と区別します。報告機会は、個別登壇枠や露出量の保証ではありません。

概念実証プログラムへのご招待

ローカルゼブラ活動のインパクトを、確かめる。

従業員のエンゲージメントとIKIGAI度の変化、活動への関与度との関係を検証。性格や価値観も測定することで、従業員の変化と地域貢献活動の関係を分析、報告します。

検証する2つの仮説

01　開催後のエンゲージメントとIKIGAI度が高まる。

エンゲージメントとIKIGAI度は、開催前より開催後のほうが高くなる。

02　イベントへの関与度が高いほど、上昇幅が大きい。

企画・準備・運営などに深く関わる従業員ほど、上の2指標の前後の上昇幅が大きくなる。

BEFORE / 関与前
企画・準備に関わり始める前に
エンゲージメント・IKIGAI度と
性格・価値観を測定

→

生きがい盆踊り
役割・時間・主体性を記録
関与の仕方を捉える

→

AFTER / 開催後
共通の時期に同じ項目を測定
同じ人の変化を比較

指標	測定の役割
エンゲージメント	仕事への前向きさ・熱意など。統一した尺度で前後を比較します。
IKIGAI度	生きがい意識。前後の得点と、活動への関与度との関係を調べます。
価値観	個人の価値観の配置・変化を探索します。高得点を目標にはしません。
性格	性格特性の個人差と前後の変化を確認。上昇を目標にはしません。

希望する主催企業の従業員が対象です。研究用IDで前後を照合し、開始時点の得点や性格・価値観も考慮します。関与度の定義・測定時期・分析方法は開始前にそろえます。

日本IKIGAIデザイン協会による測定・評価支援（提案）

活動の価値を、評価レポートに。

協会が共通の方法で調査設計・測定・分析を支援し、変化・変わらなかった点・改善案を貴社へ返す計画です。閉会式では開催結果と検証の学びを報告し、次の人づくり・地域活動に活かします。

仮説は未検証です。不変・低下も確認し、前後差だけで盆踊りの因果効果とは断定しません。地域全体への影響はこの従業員調査だけでは測れません。住民との関係の変化や社員の誇りを直接捉える質問は、必要に応じ追加設計します。

研究参加は任意です。尺度の版・適用・利用条件、費用・共有範囲を確認し、説明・同意と必要な研究手続きを整えて実施します。発表時点で未完了なら途中経過として扱います。

参考：性格の測定 ／ エンゲージメントの測定 ／ IKIGAI度の測定 ／ 社会的インパクト・SIMI

貴社の地元での開催を、ご相談ください。

会社の想いを、地域の人と出会う時間に。
まずは「誰と、どんな関係をつくりたいか」をお聞かせください。



ご相談で伺うこと

01	開催で目指すこと
02	つながりたい相手
03	地域・希望時期・想定規模
04	会場や社内担当の準備状況
05	支援を依頼したい内容

会場も費用も、検討段階から。

未定の項目があってもご相談いただけます。貴社の目的と地域の状況を確認し、実施内容・役割分担・見積りをご提案します。

概念実証を希望する場合は、企画・準備への関与開始前にご相談ください。

生きがい盆踊り 地域開催のご相談

生きがい盆踊り実行委員会 事務局

一般社団法人日本IKIGAIデザイン協会

貴社の地元での開催を相談する →

https://design.ikigai-field.jp/contact.html

お問い合わせ内容に「生きがい盆踊り・地域開催」とお書きください。

ワクワクをしかけよう。

60分のプログラムを、地域に合わせて。

開始と終了を含む12の進行枠。
共通曲と、その土地の音頭で、社員と地域が同じ輪に入ります。

60 分
基本プログラム

12 の進行枠
開始・終了を含む構成

10 番は地元音頭
地域の踊り手と選びます

01	**オープニング** 輪への入り方をご案内	07	**定番の踊れる曲②** 例：APTs
02	**IKIGAIミニライブ** 歌から場をあたためる	08	**定番の踊れる曲③** 例：マツケンサンバ
03	**BON-KURE音頭** キャラバンをつなぐ共通曲	09	**定番の音頭③** 例：ドラえもん音頭
04	**定番の音頭①** 例：アンパンマン音頭	10	**その土地の音頭** 大和フェスでは「おせっかい音頭」
05	**定番の踊れる曲①** 例：おどるぽんぽこりん	11	**BON-KURE音頭** 時間があればアンコール
06	**定番の音頭②** 例：炭坑節	12	**エンディング** 参加へのお礼と、次の交流のご案内

曲目・出演・時間配分は、開催前に調整します。

04〜09の曲と10番の地元音頭を、主催企業・地元の踊り手と選びます。事務局への依頼範囲を確認し、進行台本、出演者、楽曲の使用条件を整理します。

曲名は選曲例です。音頭制作、DJ・踊り手等の手配支援は追加相談とし、内容・数量に応じて個別に見積ります。

大和フェスから、あなたのまちへ。

各地の企業が、地元で開く生きがい盆踊り。
その土地の音頭・人・問いを通じて、地域ごとの実践をつなぎます。



ROAD TO 初午まつり

01 / NARA
奈良・大和フェス
2026年10月25日 開催予定
キャラバンの最初の実践

02 / YOUR TOWN
あなたのまち
地元で開催したい企業を募集
地域の行事や周年行事に合わせて

03 / NEXT TOWNS
次のまちへ
2027年1〜2月を中心に各地開催予定
各企業の目的と地域に合わせて企画

GOAL / 2027.03
松阪・初午まつりへ
三重県松阪市で最終回を予定
実施日・会場・時間は調整のうえ案内

各地の実践を、万博で知り合う機会に。

2026.12.12
IKIGAI万博 開幕
地域の活動を紹介

→

2027.01-03
各地での開催と実践
企業・地域の工夫を共有

→

2027.03.21
IKIGAI万博 閉会式
開催結果と検証の学びを報告

閉会式では、各地の開催結果と、概念実証に参加した企業の従業員検証結果を報告する機会をつくります。互いの実践から学び、自社の次の活動に活かします。

松阪の最終回と万博閉会式は別の催しです。万博会期は2026年12月12日〜2027年3月21日。各地の日程・体制・費用、報告の公開範囲・形式は個別に調整します。測定が未完了の場合は途中経過として扱います。

開催から広がる、
連携と参加の選択肢。

継続的な交流、共創講座、協賛、運営への参画。
貴社の関心に合わせて、それぞれの条件をご案内します。

IKIGAIパートナー

企業同士の継続的な交流・共創に参画。生きがい盆踊りは、その具体的な活動のひとつです。

共創講座

自社の課題を題材に、AIを活かす仕事の仕組みを共に考えます。内容・参加条件は別途ご案内します。

協賛

地域開催や音頭制作など、応援したい取り組みを支援。対象・使い道・企業紹介の方法を相談します。

希望する企業は実行委員会へ

パートナー企業も、大学・学生・地域との企画や運営への参画を相談できます。企業と本人の意思を確認します。

会員制度・講座・開催費・協賛の条件と料金は別々に確認します。開催相談によって各制度への加入や委員会参画が自動的に決まることはありません。大学・学生等の参加は個別の合意に基づきます。

一体感をつくる、公式の法被。



貸出・販売、サイズ・数量、費用は事前に相談します。法被がなくても盆踊りに参加できます。

準備中 / 希望する参加者のデジタル体験

写真から、マイIKIGAIくんとWEB会場へ。

開催ページから、希望者がIKIGAIくん公式LINEの写真受付へ。人物は希望に応じてマイIKIGAIくんに変換し、本人が完成画像と掲載先を確認。顔を提出せず、会場の風景写真で参加する入口も準備しています。

写真・参加記録と、調査への参加は別々に選択。元写真を自動公開せず、掲載・取り下げを本人が選べる設計です。写真投稿からWEB会場までの連携は提供準備中です。

ステッカーから、参加記録へ。

企業・地域の名前が残る入口と、継続する参加の窓口をつなぎます。

企業との出会いから、希望する人の参加記録へ。

設計イメージ／未実装

01 企業ロゴ入り ステッカー

地域版の構成例／原画見本



貴社ロゴ | 開催地 | QR

原画の外に企業・地域の情報
QRは文字枠の見本です

企業名が手元に残る

QRを読む

02 企業・地域の 開催ページ

貴社名 ｜ 開催地

生きがい盆踊り

開催記録
当日の様子・地域の活動

会社の想い
地域への想い・事業紹介

自社 公式サイト | 自社LINE

写真・参加記録を残す

会社を知ってもらう

記録したい方が選択

03 IKIGAIくん 公式LINE

IKIGAIくん
公式LINE

写真を送る

参加を記録する

公開可否は、本人が選択
完成画像を確認して
WEB掲載は希望する方のみ

万博のWEB会場へ

万博につながる

配布・開催ページの閲覧は、LINE登録不要。自社LINEとIKIGAIくん公式LINEは、別の窓口です。

調査は写真・参加記録とは別に説明し、同意した方に案内。LINE未登録でもWEBから回答できる入口を設ける計画です。従業員PoCは企画・準備への関与開始前に募集・事前測定し、地域参加者の声は別の調査として扱います。

貴社に返すレポートの中身。

確かめること	整理する情報
地域との接点	配布数、開催ページ閲覧、自社リンクへのアクセスを区別して集計。
住民の声（追加設計）	企業を知ったきっかけ、企業への印象、次の催しへの参加意向。
従業員の変化（任意）	エンゲージメント・IKIGAI度の変化、活動への関与度、性格・価値観、社員の声。地域貢献活動との関係を分析・報告し、変わらなかった点も次の改善へ。

評価を信頼して使える体制へ

協会が測定・評価を支える。

協会は、運営と評価の担当を分け、開催支援との関係と評価方法を明示する体制を整えます。独立した第三者評価を行う場合は、評価全体を外部評価者へ委ねる体制と条件を別途合意します。

地域版・開催ページ・LINE連携は構築案です。制作・運用・測定の範囲と費用を開始前に合意します。企業には個人を特定しない集計を返し、閲覧数・登録数だけで効果を判断せず、回答対象・回答率も示します。